

## 飛騨市立河合小学校 防災教育 実践報告

### 「防災 DAY キャンプ」

1, 目的：河合地域は、山と川に囲まれた地域であり、過去には大きな水害の被害にあっている。どのような準備や行動をすることが危険を回避し、自分や家族の命を守ることになるかを考えることを通して、防災への関心・意欲を高め、実践力を養う。

2, 参加者：河合小学校児童、保護者、教職員、市役所危機管理課の方、  
飛騨市防災士会河合支部のみなさん、飛騨市子育て委員会の皆さん

### 3, 内容

#### ①防災授業 市役所危機管理課より

河合で起こりうる自然災害に備え、どのような行動をとることが危険を回避することになるか、減災につながるかを学ぶ。

#### ②我が家の避難持ち出し袋を確認しよう 防災士より

それぞれの家庭の避難持ち出し袋を見せ合い、どのようなものを準備しておくといいか、あると便利なものなどを交流し、実際に役立つ避難袋にしていく。

#### ③お菓子袋で防災バッグをつくろう 防災士より

子どもたちが好きな駄菓子とビニール袋を使って、避難するときに使う防災バッグを作る。

### 4, 学習の様子（学習のふりかえりから）

#### 過去の水害から学ぶ

「スマホで情報を見ると、洪水の時にどこが危ないか分かることが分かった。」(3年児童)

#### 備えのアップデートと交流の価値（保護者）

「頭の中でイメージして防災バッグを用意したものの、出席者の持ち出し袋を確認して、災害発生時に必要なものが不足していることを感じた。」(2年)「交流することで、わが家で準備しているものとそうでないものが明らかになり、考えの幅が広がった。」(2年)

#### 防災意識の転換（保護者）

「これまで具体的に親子で話し合ったことがなかったので、これを機会に具体的に話そうと思いました。『いつ避難』ではなく『いつまでに避難完了』という意識に変えていくことが一番心に残りました。」(6年)「危機管理課の方の話から、準備していても実際に使えるようにしておかないといざというとき避難が遅れるということを知り、確かに使えなかったら荷物になるだけだよなあと思いました。今度の休日に親子で中身を確認しようと思います。」(4年)



#### 親子や家族、地域での具体的な話し合い（保護者）

「想像力を高め、家族や周囲の方といくつものパターンで助かる道を話していきたいと思った」(4年)「息子もハザードマップに興味を示していたので、家庭で確認したいと思います」(3年)「定期的に防災についてみんなで考えることはとても重要だと思いました。」(3年)「地域の若い方が少なくなってきたので、何かあったら助け合おうということ親子で話しました。」(6年)

### 5, まとめ

過去の被害の様子を知るだけでなく、実際に、いつ、どう行動したらいいのか、具体的に考えたり、他の家庭と交流したりすることで、子どもたちは「自分も行動しなければ」「自分は何ができるだろうか」という意識が高まった。親子で自身の防災意識と家庭の備えを見直し、具体的な行動につなげる機会となった。